

幅広い層を対象に、さまざまな内容で リスクコミュニケーションを行っています。

■子どもたちの食の安全への関心を高めるために

平成22年1月6日(水)、「ジュニア食品安全委員会 in 岩手」を開催しました(主催:食品安全委員会、岩手県)。小学生、保護者など参加者36名が、午前中は二戸市食生活改善推進員の方々の指導で「親子料理教室」を実施。雑穀など地元食材を使った太巻き寿司などをおいしく味わった後、午後から「ジュニア食品安全委員会」本番です。まず、食品安全委員会の見上^{みかみ}委員長代理が子どもたちをジュニア食品安全委員に任命。地元メディアの取材も入り、皆少し緊張

気味でしたが、食中毒など食品の安全性についてのクイズを楽しく体験。その後は、

子どもたちからの質問への回答などを行いました。「食中毒はどんな食べ物からなるの?」「賞味期限切れの食べ物は食べたらどうなる?」など、大人でも思いつかないような質問もたくさん寄せられ、見上委員長代理や岩手県の担当者がていねいに回答しました。



■参加者の方々に、気軽な雰囲気での安全を考えていただくために

1月26日(火)には、東京のぐんま総合情報センターにおいて、シリーズとなっている「サイエンスカフェ」の第4話を開催(主催:食品安全委員会、群馬県)。満席37名の参加者に、まず小泉直子食品安全委員会委員長が「毒性と危険性は同じじゃない?」というテーマで話題提供。その後は参加者と小泉委員長との自由な意見交換タイムです。

「無毒性量を決める際の試験項目以外で、新たな毒性の可能性はないのか?」「化学物質が作用し合って、新たな毒性を引き起こす可能性は?」など様々な疑問や意見が出され、熱心ながら和やかな雰囲気で見聞が交わされました。

終了後のアンケートでは、大半の方から「楽しかった」「わかりやすかった」との評価をいただきました。

■地域で活動するリスクコミュニケーター育成のために

1月27日(水)～28日(木)には、和歌山において、食品の安全性に関するリスクコミュニケーター(インタープリター※型)育成講座を実施しました。受講者は20名。1日目は、講師が、インタープリターに期待すること、リスクのとらえ方、リスク評価の実例(BSE)を中心に説明。受講者は、当委員会のスライド資料をたたき台にして、有効な資料に仕上げるには何が必要かなどを討議しました。2日目は、食品のリスク評価(農薬)の説明の後、演習の一環として小規

模意見交換会「アフタヌーンカフェ」の効果的な進め方、設営準備の実際等を経験。さらに実際に、受講者が司会などの役割分担をしながら、近畿大学の泉秀実教授から話題提供いただき、アフタヌーンカフェを開催しました。

※インタープリター 原意は「通訳者」、「解説者」。科学コミュニケーションの分野では、科学の重要性やおもしろさ等を理解し、一般の方に分かりやすく伝え、同時に、科学に対する一般の方の思いや感じ方を専門家にフィードバックする人のことをいう。

食品における微生物のリスク評価について

詳細は <http://www.fsc.go.jp/koukan/risk-tokyo220226/risk-tokyo220226.html>

平成22年2月26日(金)、食品安全委員会は東京において、カナダにおける食中毒原因菌等の微生物のリスク評価の取組や国際的な機関の最新動向等についてのセミナーを開催しました。

昔から見れば衛生状況が格段に良好になった現代でも、非加熱喫食調理済み食品(サラダなど)の需要や海外旅行の増加など、新しい要因も増えたことから、食品を媒介とする疾患は絶えることがありません。今回のセミナーでは、カナダ保健省で食品中の微生物についてのリスク評価などを担当するジェフリー・ファーバー博士から「微生物が関与する食品安全について—カナダ保健省の取組」と題した講演が行われました。

カナダでは保健省、公衆衛生局、農務・農産食品省、食品検査庁など連邦政府関連機関から、州政府、準州政府レベルの法規制によって、食品安全・栄養価保護制度が実施されていますが、それでも微生物を原因とする食品媒介性疾患は、年間1,100万件～1,300万件が発生していると推定されています。講演では、そうした被害を防ぐためのリスク評価のプロセスから決定までの流れや、カナダ保健省などがこれまで開発した微生物の検出方法、食品ウイルス学プログラム、統合的サーベイランスなどが紹介されました。

講演後は、ファーバー博士と食品安全委員会の微生物・ウイルス専門調査会の渡邊治雄座長が登壇して、会場参加者との間で、遺伝子検出法などの新しい検査方法の課題や、寄生虫/原虫対策などについての意見交換が行われました。参加者には、食品安全委員会「自ら評価」で取り組んでいる数々の食品中の微生物のリスク評価を理解する上でも、非常に参考となるセミナーとなりました。

講演者プロフィール * * * * *



ジェフリー・ファーバー
(Dr. Jeffrey M. Farber)
カナダ保健省(Health Canada)健康製品及び食品部門微生物ハザード課課長。1983年、マクギル大学(カナダ)

にて食品微生物学で博士号を取得し、1983年～2000年、カナダ保健省微生物ハザード課 研究科学者、2000年より現職。1988年からオタワ大学非常勤教授。国際機関では現在、国際食品保全学会(IAFP)理事会メンバー、国際食品微生物規格委員会(ICMSF)メンバーを務める。



渡邊治雄
(わたなべ・はるお)
食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会座長、企画専門調査会専門委員、国立感染症研究所

副所長。1980年、群馬大学医学部大学院博士課程を修了し、同年国立公衆衛生院入所。1988年、国立予防衛生研究所(現、国立感染症研究所)細菌第一部長、2001年、岐阜大学教授(併任)、2005年、東京大学医学部教授(併任)。